

目指す学校像	○明るく活気に満ちた学校 ○互いに学び磨き合う学校 ○整備され安全な学校 ○地域に開かれた学校
--------	-------------------------------------------------

重点目標	1 研修による授業力向上 2 共通理解・共通行動による生徒指導・教育相談 3 凡事徹底 4 教職員組織の充実
------	-----------------------------------------------------------------

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和6年2月15日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○児童、保護者、教職員ともに学習の基礎基本が定着している(されている)という意識は90%以上肯定的意見が占めた。基礎基本の定着についてはおおむね満足しているが、学力調査の結果では、国語の「書くこと」や算数の「図形」分野で課題が見られる。また、調査の前半と後半の無回答率の差についても課題が見られるため、学習に対して最後まであきらめずに取り組む姿勢の育成についても取り組む必要がある。 ○けじめや努力に対して肯定的意見が90%以上である。 ○体力向上については、感染症対策が緩和され、活動が増えてきたにも関わらず児童の肯定的な割合は80%を切った。保護者、教職員は90%以上が肯定的意見であり、差が見受けられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの自律化・探究化に向けたスタディログを活用する授業の実践及び改善</li> <li>学ぶ楽しさを実感し、主体的に取り組む児童の育成に向けた学校行事の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な学びを軸とした校内研修の推進</li> <li>国語、算数についてスタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に児童への学習の目標の見直しの時間を設定し支援を行う。</li> <li>全国及び市の学習状況調査について、分析を行うとともに、市教委によるカウンセリング研修を受けることで、より効果的な手立てを設定し学校全体で児童の「書くこと」の向上を図る。</li> <li>学校生活、学習活動の中で、児童がけじめを意識できるような具体的な指導を学年・学級での活動で行う。</li> <li>体力向上に係るイベントを設定、及び教科指導を通して、楽しく活動できる機会を増やし意欲の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果の分析を踏まえた、授業改善の視点、手立て等を学年ごとに設定することができたか。</li> <li>アプリの個々の学習状況等を活用し、児童が学習の見直しを行う時間を設定することができたか。</li> <li>国語の「書くこと」の正答率が2pt向上したか。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、【けじめ努力】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、児童において【体力向上】の項目が肯定的な回答を80%以上とすることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査結果の分析を踏まえ、授業改善の視点、手立て等を学年ごとに設定し。授業を実践することができた。</li> <li>アプリの個々の学習状況等を活用し、児童が学習の見直しを行う時間を設定することができた。</li> <li>全国学習状況調査国語の「書くこと」の正答率が23.3pt下がった。(全国△21.8)</li> <li>【けじめ努力】肯定的な回答の割合、児童98%、保護者91%、職員100%</li> <li>【体力向上】肯定的な回答の割合は児童75%、2pt減少 保護者93% 教員100%</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人研修、目的別チーム研修の体制を構築し、児童の実態に応じた授業改善を継続して行う。</li> <li>スクールダッシュボード等の学習ログを活用して、個別最適な学びを推進する。</li> <li>全国、市の学習状況調査を適切に分析し、「書くこと」の向上を図るために、教科横断的に取り組む体制を継続して構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の肯定的意見が低い数値となっている原因の一つとして、運動できる場所が制限されていることがあるようだが、経験としてどう積み上げるかが課題である。</li> </ul>
2	○いじめ防止に関しては、肯定的な意見がR3年度と比較して大きく向上し平均して95%以上であった。その中で保護者の割合が1番低いことが課題である。いじめ認知が積極的に展開され、いじめの重大事態が起ることなく児童や保護者の安心感が増加したことが分かった ○教育相談については、肯定的な意見が児童81%、保護者91%、教職員100%全体的に高い結果である。児童の割合が1番低いことが課題であり、多様な児童のニーズに応えられない場面があることが考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム蓮沼として行う生徒指導・教育相談に向けた行内体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導・教育相談での教職員間の共通理解を図る場の設定</li> <li>SC、SSWと連携を図った教育相談体制の更なる充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解研修を年間2回以上実施することができたか。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、保護者において【いじめ防止】の項目が肯定的な回答が92%以上とすることができたか。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、児童において【教育相談】の項目が肯定的な回答が82%以上とすることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童理解研修年間2回実施</li> <li>【いじめ防止】肯定的な回答の割合、児童95%、保護者91%、教職員100%</li> <li>【教育相談】肯定的な回答の割合、児童79%、2pt減少 保護者94%、職員100%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ撲滅スローガン」「いじめ撲滅の木」の推進、「心と生活のアンケートの活用」、児童との面談等の取り組みを通して、いじめの撲滅、早期発見、迅速な対応を行う。</li> <li>「スクールダッシュボード」「心と生活のアンケート」や児童教育相談週間等の面談を実施し、子どもたちの悩みや相談に対応していくとともに、児童が相談したい時に相談できる体制づくりを強化し、担任以外の教員も積極的に声かけを行う。</li> <li>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、管理職等に加え、外部機関との連携を図りながら、や毎月の教育相談日等を中心に、保護者の相談等に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スクールダッシュボード」の活用が上げられているが、先生や家庭から見取ってあげることが必要だと感じる。</li> </ul>
3	○元気なあいさつについては、肯定的な意見が児童の90%、保護者76%、教職員100%であった。あいさつについては、自発的なあいさつができないという観点から、保護者、地域、教職員の中で共通理解が進んできている、さらにあいさつが文化として定着するために継続して取り組む。 ○清掃活動については、児童、保護者、教職員ともに90%以上の肯定的意見があった。 ○集団生活のルールやマナーについては、これも児童、保護者、教職員ともに95%以上の肯定的意見があった。 ○思いやりの行動についても児童、保護者、教職員ともに96%以上の肯定的意見があった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携・協働による当たり前のことを当たり前に行える児童の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講話朝会、学校だより等を活用したあいさつの啓蒙</li> <li>毎週月曜日の児童会主催のあいさつ運動の実施</li> <li>清掃活動における、教科等と関連付けた横断的な指導の推進</li> <li>蓮沼小のやくそくの児童・保護者・教職員の共通理解のもと、指導支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動を学期に8回以上実施できたか。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、【校内美化】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、【集団生活】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動を、27回実施(12月現在)することができた。</li> <li>小中合同あいさつ運動、未来くるワークと連携したあいさつ運動を1回ずつ実施することができた。</li> <li>【校内美化】肯定的な回答の割合、児童98%、保護者96%、教職員100%</li> <li>【集団生活】肯定的な回答の割合、児童96%、保護者97%、職員97%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動や日常的な指導のみならず、児童会活動、道徳の指導、生徒指導など総合的な視点から児童、学校、家庭、地域で連携して指導していく必要がある。様々なイベントなどと連携しながら、最善な方策について生徒指導主任を中心に検討・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつについては通学時など大きな声であいさつをしてきている。保護者の評価が若干低い、「あいさつは家庭から」という意識を持ってもらえるようにしていくことが必要ではないか。</li> </ul>
4	○学校に楽しく登校できているという肯定的意見は児童、保護者、教職員ともに91%以上と高かった。 ○頑張ったことや努力したことを認められているかという質問に対しては、教職員が100%以上の肯定的意見に対し、児童88%、保護者は91%であった。向上傾向にあるが、児童・保護者・教員の差が課題である ○情報公開については児童、保護者、教職員ともに91%以上の肯定的意見であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりのWell-beingを実現するための教育活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>50周年記念に関わるプロジェクトを学校全体や学年等行事と関連させて実施する</li> <li>児童の実態に合わせた学校行事の実施</li> <li>情報端末を活用して児童向けのアンケートや面談時の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートにおいて、【学校生活】の項目が肯定的な回答が92%以上とすることができたか。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、保護者・児童において【個性の伸長】の項目が肯定的な回答が89%以上とすることができたか。</li> <li>週に4回以上のHPの更新を行うことができたか。</li> <li>学校評価アンケートで【情報公開】の項目が肯定的な回答が92%以上であったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【学校生活】肯定的な回答の割合は、児童90%、保護者95%、職員100%</li> <li>【個性の伸長】肯定的な回答の割合、児童88%、保護者92%、教職員100%</li> <li>HPの更新を、週4回以上更新を実施</li> <li>【情報公開】肯定的な回答の割合、児童86%、保護者92%、職員は97%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が生き生きと活動し、学校へ楽しく通うことができるような行事や取組を可能な方法で積極的に実施する。各学年や各学級においても学校生活をさらに充実させられるような指導を実践したりしながら学校運営を推進する。</li> <li>児童が活躍できる場や機会を設定する。また、発表機会のみならず授業等において、児童それぞれのよさを生かせる場面を設定したり、認め励ます指導や声掛け適切な評価等をしたりすることで、自己肯定感や自己有用感を高める。</li> <li>手紙配信アプリ、学校HP、学校安心メールを活用しながら、学校から積極的に保護者が求める情報を必要な時に提供できる体制を構築し情報発信を続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外で児童を見かけた際に、下を向いている子が減ったように感じる。</li> <li>50周年記念式典では児童主体の活動が見られ、非常に良い回であった。今後も地域とのつながりをもっと増やしていけるとよいと思うので、地域のイベントなどの紹介や表彰などを学校で行ってほしい。</li> </ul>